

「神奈川書家三千人展」でも活躍している川崎市多摩区在住の書家、茂住菁邨(63)。内閣府人事課に定年後も再雇用されて勤務し、新元号「令和」が発表された際、菅義偉官房長官が掲げた書を担当した。仕事や書に懸ける思いを聞いた。

(下野 綾)

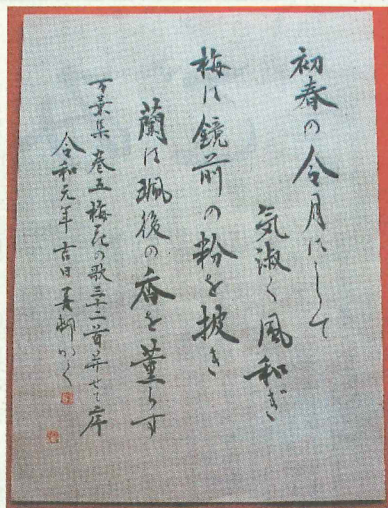
### インタビュー

### 新元号「令和」の書を担当

## 書家 茂住 菁邨

(川崎市在住)

# 作品の命 長く保たせたい



「初春の令月(れいげつ)にして気淑(よ)く風和(やわら)ぎ梅は鏡前の粉(こ)を披(ひら)き蘭は珮後(はいご)の香を薫(かお)らす」

もつとろまく書けたと思  
う」とほほ笑む。  
「揮毫用紙の選定から額  
に入れるところまで担当し  
た。どれだけの人があの字  
を見ているのかと思うと怖  
いくらいだが、自分で書い  
た書ながら、よそ事のように  
でもある」

揮毫当日の早朝、氏神で  
ある長沢諏訪社(同区)に  
夫婦で参拝したという。同  
神社は三千人展に出品する  
大作を書く場としても利用  
している。

「実は書く4、5日前に  
『書けなかったらどうしよう  
と恐怖心が起こった。  
練習できないし、不安だっ  
た。書いた字が受け入れら  
れなかったら、と想像して  
しまった」  
だが、それも一瞬のこと  
で、不思議なほど冷静に当  
日を迎えたという。

「新天皇が即位されるこ  
とで、日本中が新しい元号  
を明るく受け止めた。そこ  
に少しでも関わることがで  
きて、すごくうれしいしあ  
りがたい」

書との出会いは大学生。  
短大を卒業後、社会に出る  
準備期間が欲しくて大東文  
化大に入学。同大は書道研  
究が盛んで、書道部には3  
70人も部員がいた。  
「兄が他大学で書道をや

辞令専門官として、普段は官記、位記、表彰状などを毛筆でしたためる役割を果たす。官記とは、国務大臣の任命書などの辞令書。位記とは功績のあった者に下賜される位階を記したもので、故人に贈られる。他に、天皇が署名する決裁に関わる書類などもある。

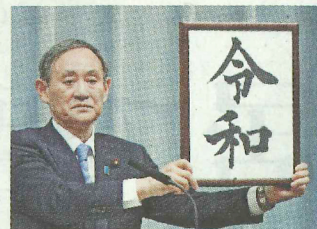
「公文書として保存される物で、間違えられない。皆さんの目に触れないところでもいつも緊張している。数十枚もの官記を作成交付する組閣改造のときが一番忙しい」という。

「令和」の書は4月1日の発表当日、あまり時間がない中で書いた。「制限がある中で精いっぱいやった。焦りはしなかったが、もつと早く知っていたら、



「令和」の出典となった万葉集の引用文をしたためる茂住菁邨

長沢諏訪社



新元号「令和」を発表する菅官房長官＝4月1日午前、首相官邸

2015年の三千人展に出品した「四神」は「龍、鳳、亀・巳、虎」の字を、東西南北を守る中国神話の靈獣に見立てて書いた。3年の試行錯誤を経て、ようやくたどり着いた。「龍」が躍動する靈獣「青龍」に見えてくるような、図像的な面白さがある。

同展には、流派や会派を超え、書の多様な分野から作品が集まる。「せっかくなので、泉内のホテルや企業などに見てもらい、売却やレンタルなどで作品を飾ってもらう機会を同展が橋渡しする場になれればいい」と提案。「多くの人に見てもらうことが、作品の命を長く保たせることになる」と期待している。